

# 持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン (概要)

資料3

## 1. 環境人材：持続可能なアジアの実現に必要な不可欠な次世代型人材像

### 環境人材

自己の体験や倫理観を基盤とし、環境問題の重要性・緊急性について自ら考え、各人の専門性を活かしたキャリア、市民活動等を通じて、持続可能な社会づくりに取り組む人材。

### 持続可能な地球にはアジアの対応が欠かせない

急速な発展を遂げるアジア  
経済成長  
ライフスタイルの変化  
人口増加

急速な環境負荷増大のおそれ  
地球温暖化  
公害・健康被害の発生  
資源・食糧・水需要の拡大  
生物多様性の減少 等

短期： 公害等による甚大な社会・経済面の被害  
中長期： 地球規模の持続可能性への影響（気候変動等）

**【持続可能なアジアを実現するために求められる視点】**

1. 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を希求する社会構造や産業構造のパラダイムシフト
2. 自然共生の思想等、多様かつ独自なアジアの伝統的な知見の活用と普及
3. あらゆる分野・産業で、長期的かつグローバルな視点での具体的な行動

### 本ビジョンにおける人材育成のターゲット

持続可能なアジアの実現に必要な人材

あらゆる分野・職種で必要

環境配慮型市民

環境人材

実践 影響 構築

環境負荷の少ないライフスタイル

好循環 環境を統合した社会経済システム

環境、経済、社会を統合する社会・地域デザイン等の全体戦略を描き行動・実践していく環境人材

従来型環境専門家（自然保護、公害防止、環境アセス等）

環境以外の専門性を有する各分野のリーダー

環境・経済・社会を統合する社会・地域デザイン等の全体戦略を描き行動・実践していく環境人材

従来型環境専門家（自然保護、公害防止、環境アセス等）

環境以外の専門性を有する各分野のリーダー

ビジネス・技術・社会等のグリーン化に取り組む人材

ビジネス・技術・社会等のグリーン化に取り組む人材

環境人材

環境配慮型市民 2050年

現在

全市民・職業人・地域人

### 環境人材に求められる3大要素

環境人材

リーダーシップ

専門性

意欲

- 経済社会活動に環境保全を統合する企画構想力
- 関係者を獲得・合意形成し、組織を動かす力
- ビジネス、政策、技術等を環境、経済、社会の観点から多面的にとらえる俯瞰的な視野

- 環境以外の分野（法律、経営、技術等）の専門性
- 専門性と環境・社会との関係を理解し、環境保全のために専門性を発揮する力

- 持続可能な社会づくりの複雑さ・多面性を理解し、それに取り組む強い意欲

## 環境立国を人づくりから支えるため、日本のリーダーシップのもとアジア環境リーダー育成イニシアティブを強力に推進

## 2. アジアの環境人材育成・活用の望ましい方向性と現時点での課題

望ましい方向性	時期	生涯を通じた能力開発	内容	手法・場所
<p>望ましい方向性</p> <p>強い意欲</p> <p>専門性</p> <p>リーダーシップ</p>	<p>時期：大学・大学院は3大要素を統合して学ぶことが可能</p> <p>小中学校 高校 大学 大学院 社会人</p>	<p>生涯を通じた能力開発</p> <p>環境人材は大学・大学院の期間で育成できるものではなく、生涯を通じたキャリア開発が重要</p> <p>環境人材間のネットワーク</p> <p>環境キャリアの情報</p> <p>国内外で活躍する環境人材</p> <p>大学・大学院卒業時</p> <p>社会で求められるスキルの明確化</p> <p>リカレント教育</p>	<p>内容：T字型の知識体系</p> <p>自らの専門性と環境の関係と、活用方法の理解</p> <p>一定程度の持続可能性に関する視点からの俯瞰力</p> <p>法、経営、技術等の専門性の深さ、専門分野での強さ</p> <p>•アジアの企業、開発の現場で真に必要なとされる内容の明確化</p> <p>•副専攻等の活用</p>	<p>手法・場所：参加型、問題解決型、現場活用型</p> <p>持続可能性の現状と対策の緊急性の理解</p> <p>持続可能な社会の実現に向けた強い意欲</p> <p>持続可能な社会づくりに向けた各人の職業を通じたコミットメントの重要性の認識</p> <p>各分野、職種で持続可能な社会づくりに必要とされる専門性</p> <p>各人の専門分野と環境保全との関係の理解</p> <p>新しいシステムを生み出す構想力</p> <p>対立する利害を調整する合意形成能力</p> <p>アントレプレナーシップ（起業家精神）</p> <p>教室内</p> <p>講義</p> <p>ディベート・ケース等の参加型学習</p> <p>実地研修（深大な環境問題の現場等）</p> <p>教室外</p> <p>インターンシップ</p> <p>学生環境団体等による実社会での活動</p>
<p>現在の課題</p> <p>日本を含むアジア全体</p> <p>途上国に特徴的</p>	<p>•3大要素が個別に教育されており、統合的に教育されていない。</p> <p>•そのため、環境リーダーを体系的に育成する体制が不十分。</p>	<p>•継続的学習の場の不足</p> <p>•環境キャリア情報のミスマッチ</p> <p>•高度な専門性を持つ人材が先進国等に流出（頭脳流出）</p>	<p>•専門性と環境の統合のための教育が不足</p> <p>•企業等が環境人材に求める能力・スキルが不明確</p> <p>•アジアの生活・開発に貢献できる教育の不足</p> <p>•限られた資源（人材、予算）を優先付けできる俯瞰教育の不足</p>	<p>•特に赤で囲んだ部分の教育を強化すべく、</p> <p>•環境問題及びその解決の現場でのフィールドワークやインターン等の現場体験の不足</p> <p>•企業を含む社会の側のインターンやフィールドスタディ受け入れ態勢の未整備</p> <p>•講義や演習以外のケーススタディ等の参加型学習、問題解決型学習の手法は開発途上であるほか、指導者が少ない</p> <p>•現場を知る外部講師や現場が必要となるが、マッチングのコストが大きい</p>

## 3. 産学官民の協働によるアジアの環境リーダー育成イニシアティブの展開 (ELIAS: Environmental Leadership Initiatives for Asian Sustainability)

### モデルプログラム開発・普及

強い意欲 大学1,2年を想定

- 環境悪化の現場やそれに苦しむ患者等との意見交換を通じ、環境問題の実感や人間社会に与える影響の甚大さを体感（現地見学/ロールプレイ等）
- 地球環境問題等の科学的知識を得る講義・グループワーク

T字型専門性 大学3,4年を想定

- 環境問題を理解し、各自の専門の視点から環境保全に貢献する方策を企画構想するのに必要な技能の習得（講義、実験、演習等）
- 環境・社会・経済の統合的向上という容易な解のない問題への態度やスキル習得（ロールプレイ、ケーススタディ等、アジアの学生との実施）

リーダーシップ 大学院を想定

- 問題解決型フィールドワーク、インターンシップ

環境人材育成プログラム開発支援

産学官民連携強化

共通インフラ開発

教材・プログラム共有等

環境人材育成プログラム開発支援

対アジア向けプログラムの情報集約・発信機能

産学連携強化（例：環境ビジネス展開に向けた共同研究の推進）

### 産学官民連携の環境人材育成コンソーシアム（仮称）

活用

企業

大学

行政

NGO

産学官民協同教育コーディネイト

産学官民協同教育システム構築

共通インフラ開発

支援

環境人材育成プログラム開発支援

産学連携強化

共通インフラ開発

教材・プログラム共有等

### 環境人材育成に取り組むアジアの大学のネットワーク化

体制

中国

インド

タイ

韓国

オーストラリア

現場で真に必要なとされる環境人材の育成

アジア諸国政府の支援

特徴

アジア各国の現場で活躍できる人材育成

機能

- 教材・プログラム等の知見の共有
- アジアの知見を活用した共同プログラム
- 学生・教官の人材交流
- 環境人材のネットワーク化 等

次世代型の環境人材育成手法の確立

各界の強みを生かした環境人材育成の仕組みづくり

アジアの大学院の環境人材育成能力強化